

野菜類における菌核病の防除対策について

県全域の野菜類で菌核病の発生が多くみられます。気象予報によると向こう1か月の気温の低い確率および日照時間が少ない確率が共に 40%と予想されており、本病が発生しやすい状況にあります。また、出荷後に市場で発生する場合があります。貴管下における防除対策のご指導をよろしくお願いいたします。

1 発生状況

- (1) さやいんげん(平張り)における1月下旬の沖縄本島南部の発生圃場率は80%、発病株率は8.8%(平年1.0%)と平年より高かった(図1、3)。また、石垣島の施設栽培でも発生がみられた。
- (2) レタスにおける1月下旬の沖縄本島南部での発生圃場率は100%、発病株率は1.5%(前年1.1%、平年0.2%)と平年より高かった(図2、4)。
- (3) 宮古島および伊江島のとうがん(図5)や沖縄本島のキャベツでも発生が確認されている。

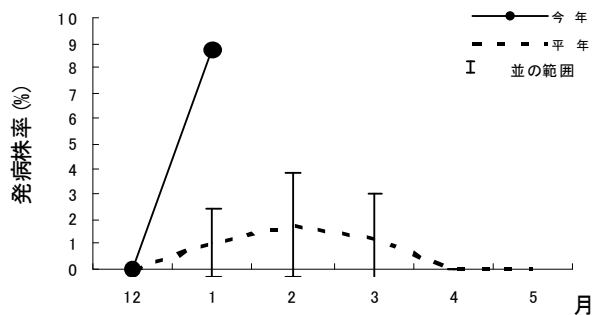


図1. さやいんげん(平張り)における菌核病の発生推移

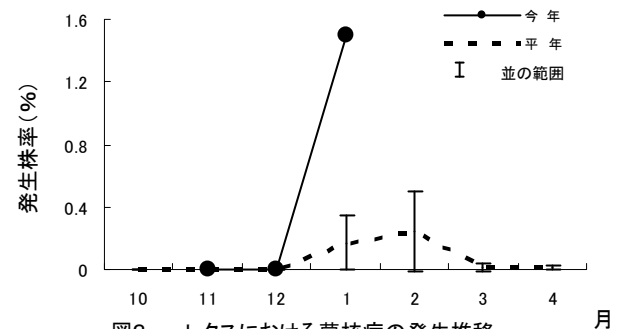


図2. レタスにおける菌核病の発生推移

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) 本菌は多犯性で多くの植物を犯し、連作畑で多発しやすい。
- (2) 低温多湿時(1~3月)に発生しやすく、施設内では結露などにより発生が助長される。
- (3) 発病株、発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- (4) 多湿時に発生しやすいので、さやいんげんでは老葉は取り除き透光通風を良くする。
- (5) 補植や植替えを行う場合は、発生源となる地際部の菌核を残さないよう土壌ごと圃場外へ持ち出し処分する。
- (6) 出荷後に市場で発生する場合もあるため、圃場での薬剤防除を徹底する。



図3. さやいんげんの莢に生じた菌核



図4. レタス発病株



図5. とうがんに発生した菌核病